

## 被災地での資料保存の取り組み

吉原 大志

(歴史資料ネットワーク事務局長)

### 0. はじめに

#### (1) 歴史資料ネットワーク (史料ネット) について

歴史研究者を中心としたボランティア団体。阪神・淡路大震災をきっかけに、関西に拠点を置く歴史系学会によって設立。被災した地域の歴史資料の保全・救出と、そのための日常的な取り組み。

現在、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター内に事務局を置き、約 300 名の会員からの支援のもと活動を継続。

#### (2) 本報告の内容

- ①史料ネット活動の成り立ちと広がり
- ②何を保全の対象としているのか
- ③実際に被災地で取り組んでいること

### 1. 史料ネット活動の成り立ちと広がり

#### (1) 史料ネットの成り立ち

1995年2月4日、設立@尼崎市立地域研究史料館

実働の中心は20~30代の若手研究者、資料所蔵機関職員、地域史研究者などが中心  
段ボール1,500箱分の地域歴史資料を救出、継続的な市民講座の実施

2004年以後、水害への対応を開始。特に画期となったのが台風23号水害(兵庫県・京都府北部)。

#### (2) 「史料ネット」活動の広がり

阪神・淡路以後、各地で頻発する地震・風水害への対応

→ 現地のネットワークを活かした「史料ネット」づくりの支援が基本

現在、全国に24の「史料ネット」が活動。<本店一支店>関係でない、多様な活動の展開。

東日本大震災に際しての広域的な相互協力

### 2. 何を保全の対象としているか

#### (1) 民間所在資料

江戸時代以来の古文書だけではなく、身近な生活の記録 ※写真、ホームムービー  
「どこにでもあるけれども、そこにしかない」 「地域歴史遺産」という考え方  
「誰が・どこで・どのように」保管しているかがわからない  
したがって活動の当初から保全する対象が定まっているわけではない

## (2) 「被災資料」と「災害資料」

被災資料：災害によって被災した資料。災害前のことを知る手がかりに。

災害資料：災害をきっかけに作成された資料。災害それじたいを、災害後のことを知る手がかりに。

被災資料と災害資料を通じて、被災地の歴史的なあゆみを残し、知ることができる。

阪神・淡路大震災における図書館による震災資料収集・保存の先駆的な取り組み。

中越地震や東日本大震災を経て、災害資料の収集・保存の深まり

## 3. どのように保全するのか

### (1) どこでも・誰でも・簡単に

専門的な知識や機材、技術を前提としない保全方法を重視。

100円ショップとホームセンターで買えるもの。初めて参加した人でもできること。

2004年以来の水害対応経験が基礎。

### (2) 実際に被災地で取り組んでいること

乾燥（吸水乾燥、送風乾燥、エアストリーム法、スクウェルチ・ドライイング法）

洗浄（ドライクリーニング、浸け洗い、フローティングボード法）

様々な被災状態にある多様な資料への対処方法を、どのような根拠のもとに選ぶか。

作業員自身の「できること」「できないこと」の見極め。

おわりに